

熊本地震 美咲野小の想い 第2話



「私はこう考える」編 その1

○美咲野小だよりを読んで、あの必死で逃げた日のことを思い出しながら、涙が出ました。子どもたちに「大丈夫！」と声をかけながら不安で、夢であって欲しいと思いながら、美咲野小体育館の駐車場で余震に怯えながら一夜を過ごしました。

○避難先を求め、県外の実家に避難しました。美咲野小の状況が分からず自分は安全圏にいたという思いもあって、心苦しかったです。余震の多さには恐怖をとりわけませんが、何とか日常を過ごしていきたいと思っています。

○家族の大切さ、水・電気があるあたりまえの日常の大切さを家族で話します。

○7号全て読み、自然に涙があふれてきました。夢だと思いたい。でも目覚めると、自衛隊のヘリの音。「現実と向き合うこと」がこれほど辛いこととは・・・

○3人の母ですが、恐怖のあまり大パニックでした。体調も崩し、子どものケアどころではなかったもので、これからは、少しずつでも前にように、たくさん笑って、子どもの話をよく聞いてあげなくては・・・と反省しています。

○私はこの地震で、子どものケアをどうするのかと考え、「まずは自分だ！」と気付きました。不安だけではなく、喜びも、全てにおいて、子どもに伝わるんだと思い、まずは子どもにゆっくりと「絶対大丈夫。何があってもママたちが守るから。」ということを伝えました。余震が続く中、自分自身が落ち着いていると、子どもたちも自然に落ち着きを取り戻してくれています。笑顔で学校に登校できるだけで幸せです。

○お便りを読んで、頭の中を整理することができました。学校開放はとても助かりました。家でも東北の「てんでんこ」の話をして、まず自分の命を守ること。生きてさえいれば絶対会えると話をしました。余震の不安はまだまだ続きそうですが、子どもたちの笑顔に救われる毎日です。

○一番考えさせられたのが、「生きる力」と生き抜く力です。思いやりも温かさも優しさも厳しい状況の中では安心・安定になることを実感。車中泊の時も余震の時も手をつなぎ、「大丈夫だよ。」といいながら、私が一番しっかりしなくてはと思っていました。これからも、このぬくもりの絆を大切に育てていきたいと思っています。

○あの日、小学校のグラウンドに避難し、数日後に改めて校舎やグラウンドを見たとき、学校の有様に恐怖を覚えました。「まだ新しいのに・・・」「もう一回地震が来てそれが授業中だったら・・・」と思うと、正直学校へ登校させるのが怖いとあの時は思えました。でも、お便りを読んで、先生方がいろんなシミュレーションをして子どもたちの安全確保をされようとしていることがわかり安心しました。

○ようやく通常授業が始まり、親の私が一番ほっとしている気がします。初めての大地震、家族全員が無事だったことが何より救いでした。下の子が不安で大泣きする中、お兄ちゃんとしてどんと構えてくれて私の方が支えられてしまいました。

○本震が来たとき、正直死ぬんだと思いました。家具・電化製品はほとんど倒れたり、落下したりして壊れてしまいました。家の中も所々ひびが入っています。実家がある県外に避難しました。この子たちを守るのには私しかない。頼れる人はいないという心境でした。

○お便りを読みながら、あの時、子どもたちをどうにか守ろうとあの激しい揺れに耐えていたことを思いだし、涙が出ました。

○遠足の準備をしていたリュックの中身を避難用に変えて体育館へ行きました。私一人で子どもたち3人を守るかその思いで苦しくて備蓄があっても家が大丈夫であってもやっぱり心細くて、体育館で知り合いの顔を見るだけでどんな安心したか、余震続く中、日中もこれからどうなるのか不安でしかたなかった矢先の本震。光を求め、体育館へ。眠たい目をこすりこすり息子たちを移動させ、しばらくは車中泊でした。祖母宅は全壊しました。思い出のおもちゃや写真も瓦でつぶされており未だ断水が続いております。ボランティアの方々、役場の方々、自衛隊の方々に本当に感謝しています。

美咲野小だより

5月

NO. 11

H 28. 5. 27

大津町立美咲野小学校
文責：草場ルミ子

美咲野小の

美咲野小に来て驚いたことの一つ。こんな電話がよくあります。「道路で一輪車に乗って遊んでいる子が数人いて車に傷が付きました。学校から注意して下さい。」「家の前の道路でキックボードをしていて危険です。注意してもやめません。学校で指導してください。」お名前や場所を言わない方も多数。実は本震の2日後に「美咲野の子はいきつません。今も道路でボールで遊んでいて車庫に入ってきた。困ります。どうなっているんですか。学校で指導して下さい。」という電話を頂きました。もちろん学校でも指導はしますが、学校で指導しただけの力では無理です。こう思うのは無責任でしょうか？マナーを守った遊び、気持ちよいあいさつ・・・どちらも家庭・地域・学校みんな子どもを育てていく意識をもつことが大切ではないでしょうか。この震災が、そんなことを考えるきっかけになればいいと思います。

第9条

この子どもあの子も
地域で子育て みんなの宝
～家庭教育十カ条より～



